『西洋の書物工房』読書会　第9回

2015.4.23.

第三章　本の誕生と製本術

三　画家の描いた書物

　＊絵画に登場する書物の背に注目

　A　フレキシブル・バック

・中世、製本術の完成時

・背には革や布がはられていた

　B　タイト・バック

　　　フレキシブル・バックの欠点を解決　－　背が割れにくい―金箔押しなどの装飾可

C　ホロー・バック　デューラー　「瞑想する聖ヒエロニムス」に登場

　　　・タイト・バックの欠点　―　開きにくい　を解決

　　　・くうた　－　背のさらなる補強、さらなる開きやすさのために日本で考案された

　＊絵画の背景として書物を描いた

　　・スペインの画家　フランシスコ・デ・スルバラン

　　　多くの羊皮紙装本を描く

　＊ケルムスコット・プレス

　　スルバランの絵に登場する書物の雰囲気を持つ

　　・羊皮紙装本

　　・ホロー・バック

　　・小口にリボン、皮ひも

　＊レンブラント　「両替商」

　　・大切な帳簿　―　ダブルの綴じ紐で厳重に綴じられている

関連話題

＊レンブラントと和紙

１．東海北陸の美しい「和紙」が今、世界中から注目を集めています。岐阜県美濃市の「本美濃紙」と、福井県越前市の「越前和紙」です。「本美濃紙」は、1300年の伝統を守り続け、去年11月にユネスコの無形文化遺産に登録されました。一方の「越前和紙」は、17世紀のオランダを代表する画家・レンブラントが使用していた可能性が高まり、現在も調査・研究が進行中です。

NHK　中部地方放送番組　金とく　「心ときめく“和紙の旅”」2015年4月10日(金)

２．貴田庄著　『レンブラントと和紙』八坂書房　2005年

担当　堤美智子